

本年度の重点課題を踏まえた各学部・各課における重点目標

重点課題1		安心・安全な学校づくり	
	重点目標	評価指標	活動計画
環境課	地域や行政と連携した避難訓練を実施し、防災対策の充実を図る。	①大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を年間1回以上実施する。	①地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画し、実施する。(9月)
		②地震・火災・土砂災害の防災訓練を年4回以上実施し、事後アンケートの結果を元に見直しが必要な箇所についてはその都度話し合い、改善した結果を全体に周知する。	②-1年間4回の避難訓練を実施し、事後アンケートを行う。(5・9・11・2月) ②-2アンケート結果を職員会議で報告し、改善した結果を職員会議等で周知する。
		③防災について生徒が体験できる活動(消火訓練、起震車体験、防災食の調理試食等)を年間2回以上計画し実施する。	③-1課会で本年度行う活動を決定する。 ③-2関係機関等と連絡を取り合いながら計画実施する。

重点課題2		多様性を育むキャリア教育の展開	
	重点目標	評価指標	活動計画
小 中 学 部	学習活動や作業課題を通して、個々のできることを積み上げる(ボトムアップ)と共に、将来に向けて必要なスキルを身につけるため(トップダウン)の指導を充実させる。	①個別の教育支援計画(支援計画表)、及び個別の指導計画(本人の夢・保護者の願い・卒業時まで身に付けてほしい力)の将来に向けてのニーズを把握し、それに基づいた年間目標(まなぶ・はたらく)を各児童生徒につき5個以上設定する。	①-1保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取り、個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させる。(4月) ①-2個別の教育支援計画を基に、さらに担任のニーズを盛り込むことで個別の指導計画(ニーズの欄、及び卒業時まで身に付けてほしい力)を作成する。(4月) ①-3個別の指導計画に関するケース会で将来に向けてのニーズとその達成のための目標を確認し、共有する。(5月)

	スレシロ。	②個別の教育支援計画、及び個別の指導計画の将来に向けてのニーズに基づく目標(上記①)が「達成」または「ほぼ達成」となる 目標の割合が学部全体で70%以上となる。	②-1指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。(7・12月) ②-2設定した目標に対する評価を行う。(2~3月)
高等部	卒業後の生活を見据え、基本的なコミュニケーションスキル(あいさつ・返事・報告・支援要求等)を身につける。	①個別の指導計画作成において、前期目標もしくは後期目標にコミュニケーションに関する目標を一人につき1個程度設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が、60%以上となる。	①-1個別の指導計画の学期目標にコミュニケーションに関する目標を設定する。(5月・9月) ①-2個別の指導計画の前期目標・後期目標ケース会において、目標と手だてについての情報を共有する。(5月・10月) ①-3学部会での生徒の状況報告の際に、指導の進捗状況や指導について検討したり、共通理解を図ったりする。 ①-4年度末に目標の評価を行う。
教務課	卒業後の生活を見据え、指導内容の精選を行うため、教育課程の実施状況を見直し、改善につなげる。	①それぞれの教育課程において、年間4回の検討を行う。(教務課会2回・学部会2回) ②年度末に行う検討に向けて、全教員を対象としたアンケートを実施する。	①-1教務課会で各学部ごとの教育課程について、見直しを実施する。(6月) ①-2教務課会で見直したことを、学部会で議題として提案し、検討を行う。(7月) ①-3教務課会で各学部ごとの教育課程についての見直しと、アンケート内容についての検討を実施する。(1月) ①-4教務課会で見直したことと、アンケート結果を基に、学部会で検討を行い、今後の教育課程に反映する。(3月) ②全教員を対象としたアンケートを実施し、結果を集計する。(2月)
環境課	ICT機器を活用した教育の推進を図るために、タブレットを使った授業の促進や情報モラルに関する教育活動を進める。	①就業体験のリモートでの施設実習でタブレット等を使った就業体験(現場実習)を行う。 ②長期休業中にリモート授業を年間2回以上実施する。 ③年度末に行う情報モラルに関するアンケートにおいて、全教員の6割以上が「実施した」と回答する。	①タブレット等を使い実習を進められるように、機器の管理や調整を行う。 ②学部会等で長期休業中のリモート授業の実施計画を検討する。 ③-1情報モラルに関する教材の収集等を行い、リストアップしたものを全教員へ案内する。 ③-2タブレットを使った授業等の中で、生徒へ情報モラルを盛り込んだ話を全教員が年間1回以上行うよう働きかける。 ③-3年度末に情報モラルに関するアンケートを行う。

進路課	児童生徒一人ひとりの自尊感情の向上、支援を受けながらの自立を目指したキャリア教育（教育活動）の実践を行う。	①就労希望形態別の学習を年に10回以上行う。	①生徒、保護者からの進路希望から就労形態別に学習グループを編成する。「職業」の時間を主として学習を行い、進路先ごとに必要とされているニーズの周知を適宜行う。
		②中学部の「はたらく体験学習」の事前学習において、高等部の就業体験の意義や学校卒業後の働き方についての学習を行う。	②高等部の就業体験を見学、体験できる機会を設定する。「はたらく体験学習」の事前学習で、写真や動画を交えて高等部の仕事内容や校外での現場実習の様子を紹介するようにし、仕事へのイメージがもてるようにする。
		②③児童生徒の自尊感情を高めるために「命の大切さ」を学ぶ授業を1回以上行う。授業を年間2回以上実施する。	③外部講師を招聘し（ 月）に実施する。
		④人権教育に関する資料を教員に年3回以上配布する。	④職員会議等の際に人権の出張等で研修した内容を伝達したり、資料等を配布したりする。

重点課題3		地域とともにある学校づくり	
	重点目標	評価指標	活動計画
小 中 学 部	校外学習や交流及び共同学習を充実させることで、本校児童生徒の活動経験を高めると共に、地域への理解啓発を図る。	①クラス、及び学部での校外学習を年間5回以上実施する。	①-1B&G体験活動や宿泊学習を計画・実施する。（7月） ①-2作業学習での工賃をおこづかいとして、美波町内への買い物学習を実施する。（適宜） ①-3校外での清掃活動や工場（森ハンカチーフ）見学を計画・実施する。（後期） ①-4お別れ遠足で、郡外（徳島市）への校外学習を計画・実施する。（2月）
		②交流及び共同学習を4校（日和佐小学校・日和佐中学校・牟岐中学校・阿南支援学校）に対して、年間5回以上実施する。	②-1交流及び共同学習の担当者同士の事前打ち合わせを行い、当日の活動や両校児童生徒の関わりがスムーズで適切に行われるようにする。 ②-2交流及び共同学習の当日の活動において、支援学校教員が両校児童生徒がスムーズに関われ、成功体験を積むことができるように積極的に支援する。 ②-3交流及び共同学習の事後学習で、相手校に手紙を書いて送る等の活動を取り入れ、活動のまとめをしたり、次年度の交流に繋げたりする。

<p>高 等 部</p>	<p>地域貢献活動を通して、社会性を養い、継続して地域とのつながりを持ち、地域への理解啓発につなげる。</p>	<p>①地域貢献活動を年間4回実施する。(6月、10月、12月、1月)</p> <p>②地域貢献活動の活動内容について、生徒と一緒に考える機会を設定する。</p>	<p>①-1地域の施設に作業学習で栽培した花のプランターを置く活動を行う。また薬王寺において、清掃活動を年間2回実施する。(6月、12月)</p> <p>①-2薬王寺において、お接待活動を年間1回行う。作業学習等で制作した作品を配布し、分校のPRを行う。(10月)</p> <p>①-3作業学習において、花の苗を栽培し、地域の小中学校に配布する。分校の活動の様子を伝えるポスターを作成し、手渡す。(1月)</p> <p>②第2回目の実施に向けて、活動内容等について、生徒と一緒に検討する機会を設定する。(アンケート、話し合い)</p>
<p>支 援 課</p>	<p>特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動についてアピールする場を増やす。</p>	<p>①特別支援教育巡回相談員活動において、就学・進学に関わる相談が昨年度(2件)より増える。</p> <p>②特別支援教育巡回相談員活動において、保護者面談や地域連携協議会で5回以上本校の概要説明を行う。</p> <p>③地域の教員や保護者、関係機関の方が50名以上参加する公開研修会等を計画する。</p> <p>④ホームページでの研修案内・報告を充実させること(更新3回以上)で、地域の方のホームページの閲覧機会を増やし、本校の教育活動について知ってもらうことに繋げる。</p>	<p>①広報活動等において、地域の特別支援教育コーディネーターと連携し、就学・進路先で悩んでいる保護者と繋ぐ。</p> <p>②学校の紹介を行う際に、パワーポイントのスライドを活用し、地域の教員や保護者に観せる。</p> <p>③案内チラシの配布や地域連携協議会等での広報を積極的に行う。</p> <p>④特別支援教育公開研修会の申し込み、及び事後アンケートの専用フォームを、本校のホームページ上に作成する。</p>
<p>生 活</p>	<p>学校間交流等の交流および共同学習を通して、ひわさ分校の教育活動や児童生徒についての理解啓発を行う。</p>	<p>①地域の人や交流校に対して、本校の教育活動に関する啓発を行い、行事等において交流校の児童生徒等の来校者を増やす取り組みを行う。</p>	<p>①-1交流校の担当者を通じて、お互いの学校の情報交換を行う。(交流月)</p> <p>①-2ホームページに行事案内や活動の様子の記事を掲載し、年間2回以上更新する。(行事月)</p> <p>①-3運動会や文化祭のポスターを交流校に年間2回以上配付する。(行事月)</p>

課	<p>②生徒同士が主体的に交流が行えるように、全校集会を通じてコミュニケーションの幅を広げられるような指導を年間2回以上行う。</p>	<p>②-1 全校活動や全校集会を通じて、伝える力、聞く力、自他を意識する力を身につける指導を行う。(通年) ②-2 交流前に交流校の生徒や活動内容を知ることができるよう事前学習を行う。(交流月) ②-3 交流後に事後学習を行い、活動の振り返りを行う。(交流月)</p>
---	---------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------